

田中研新聞

第16号

2014年
12月1日発行

2014年12月1日号
甲南大学知能情報学部田中雅博研究室 毎月発行
http://canonion.is.konan-u.ac.jp
編集長：大畔 裕 (M2)
編集委員：吉岡一樹 (M1)・岡田航大 (B3)

成果発表会&中間発表会を実施

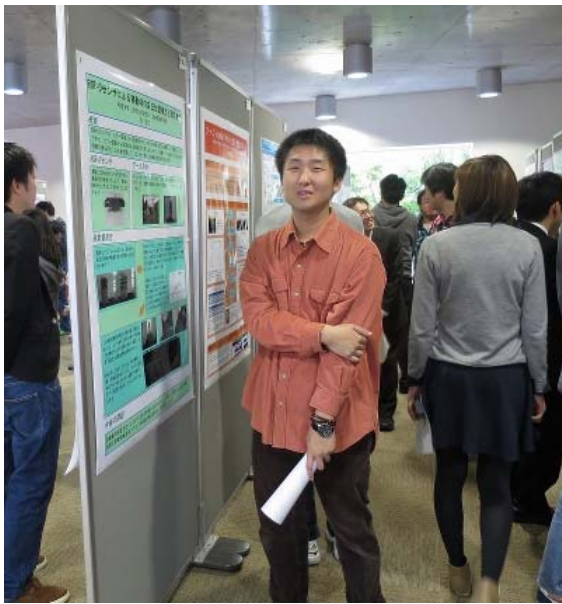
院生の研究成果を発表

大畔 裕

大学院生活が1年半以上経過し、これまで研究してきた内容は二度の学会で発表することができた。ほかの院生も回数は違うが様々な学会で発表している。学外での発表は学会やイベントなど機会は多い。一方、学内の発表は知能情報学専攻の修士の場合だと年に1回の研究成果発表会とM2で行う中間発表会、修論発表会がある。成果発表会はポスター形式、ほかは登壇形式だ。そして、そのうち成果発表会と中間発表会が11月にあり、成果や資料をそれに間に合わせるために、いつも以上に忙しい毎日が続いていて、現在も最後の修論発表会に向けて継続している。



専攻からも多くの人が発表に参加していたので、空き時間を利用して普段見ることのできない他の研究を見ることができ、いい刺激にもなりました。



この2週間後に中間発表が行われた。今度は専攻内部分なので基礎的な部分は減らし、細かい部分に穴がなないように発表しなければならぬ。中間発表ではフアジー制御に加えて、それ以前から研究していた自己位置推定について発表した。いよいよロボットの自律移動が現実味を帯びてきて、成果としては申し分がない。そう思っているのも予想外の質問でロボロボになるのが学内や発表会だが、私の発表では特に返答を窮する質問は出なかった。しっかりと研究を進め、準備した甲斐はあったというものだ。

最後の発表である修論発表会まであと2ヶ月半。これまでロボットの西校舎で動かしていたが、最近では本校舎に運んで実験することが多くなった。条件が違うので、うまくいかない部分も多いが、自分が作ったシステムは卒業後も使われるはずなので、中途半端に投げ出すような真似はしたくない。これからの時期は寒くなり実験がつかなくなるが、手を抜かず最後までやりきるつもりだ。

郭 哲史

11月、M2にとっては2度目にして研究発表の機会が訪れました。研究報告会はポスター発表で、田中研究室からは4人の院生が全員参加しました。ポスター発表ということもあり、掲示できる内容には限りがあったため、いかに自分たちの研究の内容を伝えるか試行錯誤しての参加となりました。研究報告会当日は午後から3部構成で行われ、ポスター発表は1部と3部で行われ、私は3部の発表担当になりました。終わりに近づく人も若干なくなっていたものの、学部内外合わせて数名の人に説明を行いました。質問への回答や、内容への意見を多数もらい、自分にとって有益な発表となりました。また、会場では知能情報学専攻だけでなく他

専攻からも多くの人が発表に参加していたので、空き時間を利用して普段見ることのできない他の研究を見ることができ、いい刺激にもなりました。その後2週間の間を空け、修士研究の中間発表が行われました。研究報告会とは一転して、こちらはスライドショーの発表になったため、また新しく発表用の資料を作る必要があります。しかし、研究報告会のために用意した実験のデータや大まかな基礎説明の部分は共有することができたので、決められた発表時間とすり合わせるために説明や実験データの表記を増やすことで作成が行えました。その際、研究報告会でいただいた意見も反映させることができました。当日は知能情報学専攻のM2が午前中から昼休憩を挟んで午後まで発表を行いました。私は午前の第1クール2番目と、早めの発表となりました。発表までには調整を含みつつ2度ほど練習を行いました。実際の発表は持ち時間を少々超えてしまいました。前日の練習で時間が短くなってしまったことから前半の説明をゆっくりしすぎてしまったので、これは次回に改善すべき点となりました。質疑応答では、ある程度しっかり回答はできたものの説明不足となっていました。説明不足となつてしまった部分もあるため、論文作成を行いつつ最後の発表に備えたいと思います。

野々口 誠人

今回の研究成果報告会や中間発表会は、学内にどのようなことをしているのかを伝える機会だ。私達のシステムはオープンキャンパスやナレッジキャピタルなどで一般公開していることから、どういったことをしているのかをなんとなく知っている人は多いと思われる。しかし、これまでにシステムを詳細に説明したことがなかったため、より深く内容を知ってもらうことができたのではないかとと思う。

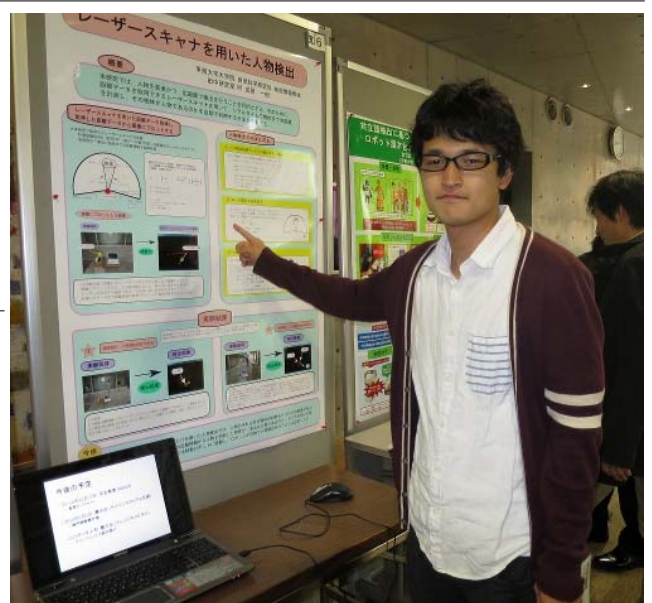


研究成果報告会はポスター形式であるため、説明の仕方や会話の流れなどは慣れたものだ。また、「ラジオ体操」、「採点」などタイトルを読めば大方、理解できることから、聞きに来る人は多いようで、学部の先生方ももちろん、他学部の先生や生徒も何人かいた。

短期間で複数回の発表となりましたが、最後のまめに向けてとてもいい機会になったと思います。

吉岡 一樹

11月8日に甲南大学校友会館でポスター発表が行われました。今回初めての参加ということもあり、他の研究室、他の学部がどのような研究を行っているのか興味もあり、楽しみな気持ちで参加させていただきました。



発表を終えて、素人相手に説明する際にわかりやすい例え話を持つておくこと、先生等への説明の際にはまず初めに背景や問題意識を説明することを反省点として今後にかかしていきたいです。

前半の部は自分の発表はありませんでしたので友人の発表を聞きに行きました。まずツイッターのツイートの研究を行っている友人の発表を聞きに行きました。友人の研究の内容はツイートの絵文字から感情抽出を行う研究でした。どのような絵文字ならば喜んでいたり、または悲しんでいるということを自動で判断するシステムの開発を行っているそうです。素人にも理解できる式やアルゴリズムでしたので、その場では理解できましたが、1週間も経過しますと忘れてしまいました。次に物理学科の友人の発表を聞きに行きました。研究を行っている分野が全く違うので研究の内容を詳しく理解できませんでしたが、ハードディスクの基板を作る研究を行っているそうです。

研究室、他の学部がどのような研究を行っているのか興味もあり、楽しみな気持ちで参加させていただきました。前半の部は自分の発表はありませんでしたので友人の発表を聞きに行きました。まずツイッターのツイートの研究を行っている友人の発表を聞きに行きました。友人の研究の内容はツイートの絵文字から感情抽出を行う研究でした。どのような絵文字ならば喜んでいたり、または悲しんでいるということを自動で判断するシステムの開発を行っているそうです。素人にも理解できる式やアルゴリズムでしたので、その場では理解できましたが、1週間も経過しますと忘れてしまいました。次に物理学科の友人の発表を聞きに行きました。研究を行っている分野が全く違うので研究の内容を詳しく理解できませんでしたが、ハードディスクの基板を作る研究を行っているそうです。

